



就任のご挨拶

理事長 院長 山下 優子



令和2年の新年度より当院の理事長に就任いたしました。平成30年に92歳で亡くなりました父が60年の歳月をかけて築いた平和台病院という総勢170名の組織を引き継ぐことの重責を感じております。

当院は現在、糖尿病専門病院としてチーム医療を実践しています。常勤の糖尿病専門医5名（そのうち指導医2名）、専門医研修医1名、放射線専門医1名、そのほか非常勤医6名（そのうち専門医3名）からなる診療部と、糖尿病認定看護師2名、糖尿病療養指導士45名を柱に、薬剤部、看護部、放射線部、検査部、栄養部、リハビリテーション部、事務部の各部門がそれぞれの役割を果たし、連携を取り合って患者さんの療養を支えます。現在4,000人前後の糖尿病患者さんが通院中です。患者さんの心身の訴えを大変貴重な学びの核として、常に学び改善を重ねてより良い医療提供ができるよう日々研鑽しています。

糖尿病は、血管が傷む病気ですので、経年的に進行するいろいろな血管合併症に注意しなければなりません。免疫系の弱さも起こりますので、感染症や癌についても注意が必要です。糖尿病治療とは、糖代謝をできるだけ良好に保つことでそれらの合併症を少しでも減らそうという目標に向かって挑戦することです。医療者と患者さんがチームを組んで挑み戦い続けます。長い戦いの中、途中で患者さんは挫けそうになりますので、いろいろな工夫をしています。まずは「糖尿病教室」や「腎症教室」で病気を学んでいただきます。さらに「透析予防教室」や「メタボ教室」なども受講できます。うまくいかなかった時に再度受講したり、療養指導や栄養指導、運動療法をうけて目標を再確認したり、糖尿病の同じ戦いをしている仲間たちと心境を分かち合える「はまゆう会」に参加してみたりと、その時々支えていく仕組みがいくつもあります。足に傷をつけると治りにくいので日常的に注意が必要ですから、「フットケア外来」という足を診る専門診療部門もあります。血管合併症に加えて感染症や癌を適切に診断するために放射線科が重要な役割を担っています。（次頁へ）

脳梗塞、心筋梗塞、腎不全、下肢動脈閉塞、視覚消失と、どの血管合併症も重大な病態で、損傷を受けた部分は完全に元には戻りません。そういう事態が残念ながら起こってしまった時には、専門の医療機関と連携をとって対処します。当院ではその後の療養をできる限りサポートするために、リハビリや透析もおこなっています。現在、100人前後の方（そのうち80人が糖尿病性の腎不全です）が透析を受けておられます。

誰でも自分の人生は自分で決めたいです。そのためには、しっかり体のことや病気の事を学んで自分の意志と責任のもとに医療を受けることが必要となります。患者さんがどう糖尿病と折り合って人生を過ごすのか、個人個人の違いを尊重して組み立てる「オーダーメイド医療」を実現させるために、私たちは知識と経験を積み重ねていかねばならないと考えております。皆様の頼りとされる病院となりますように精進いたします。

今年度は新型コロナウイルス感染症という大きな課題を抱えての出発となりました。人類が初めて出会う病原体に対しては獲得免疫がないのですから「感染する」ことは宿命です。ここ数年間は季節ごとに流行感染が起こることでしょう。ワクチンや治療薬が安全に使えるようになる時期が早く来ることを期待して、日々通院中の方々が安心して医療を受けられる環境を守っていきたいと思っています。そのためにご不便をおかけする事があるかと思いますが、どうぞご協力お願いいたします。

令和2年4月

■新入職員紹介

今年度も平和台病院にたくさんの新しい職員が加わりました。

現在は各部署に配置され、先輩たちの指導の下日々業務に励んでいます。どうぞよろしくお願ひいたします。



私の抱負

一般病棟 看護師
有馬 和加葉



私は、患者さんとご家族の気持ちに気が付き寄り添うことのできる看護師になるため、コミュニケーションを大切にしていきたいです。また、患者さんに安全、安楽な看護が提供できるよう日々学び続ける姿勢を持ち、知識と技術を身につけていきたいと思ひます。

地域連携室 社会福祉士
中武 広明



4月に入職し、主に入院患者さんの退院後の支援を行っています。患者さんやそのご家族の思いに寄り添い、様々な社会資源を活用できるように支援していきます。地域の方々に信頼されるような社会福祉士になれるよう、日々学んでいきたいと思ひます。生活等で不安がある方は、お気軽にご相談ください。

■ 当院のご案内

保存期腎症教育入院
(1週間)も行っています。

糖尿病教室

- 糖尿病の患者さんご家族の方向けに糖尿病教室を開催しております。医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士が専門的な立場から糖尿病についてわかりやすく解説します。



腎症教室・透析予防教室・メタボ教室

- 腎症教室・透析予防教室は医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師、管理栄養士等が病態の説明や検査値の説明、食事の工夫など腎症患者さんの時期に合った内容をお伝えする参加型の教室です。
- メタボ教室ではBMI 25以上の患者さんに内臓脂肪や運動について多職種でアドバイスします。



運動教室・ストレッチ教室

- 理学療法士、健康運動指導士、健康運動実践指導者による参加型の教室を開催しています。



栄養相談・選べるランチ

- 個々人の病状、生活形態に合わせて食事の提案を行い、継続出来るような栄養相談を行っております。



- 数種類のメニューの中から、自分のカロリーの範囲内で選んで食べていただける、楽しく学べる食事提供を行っています。

※ 選べるランチは時期により、実施していない場合があります。

フットケア外来

- 当院での取り組みは1991年頃より始まり、爪切りややすりだけで実施していた時期から、電動研磨機を導入し、より一層効率よく実施しています。
2007年にはスプレー式フットケアマシンを導入、2009年1月には、「フットケア外来」を開設し、専任看護師がフットケアだけでなく、足病変の予防も含めた療養指導を行っております。
- 足や爪血流等でお困りの方、どうぞ遠慮なく声をおかけください。



TOPICS
トピックス

糖尿病と災害についてのご紹介

日本糖尿病協会が糖尿病患者さんに防災意識を高めていただくことを目的に、災害が発生する前と後の両方で役立つリーフレットを制作しました。災害から身を守るために必要不可欠な情報を、糖尿病患者さんが日々持ち歩く糖尿病連携手帳に挟み込んで携帯することができます。

内容は、「災害に備える」をテーマに、薬剤等の非常時携行品リスト、薬剤の名称や避難所情報、地域の災害拠点病院の連絡先記入欄に加えて、災害発生時における糖尿病管理の心得を掲載、さらに、「避難生活を乗り切る」をテーマに、食事と運動のワンポイントアドバイスをイラスト入りで掲載しています。

近年、大型台風や南海トラフ巨大地震等、いつ起こるかわからない自然災害の発生が懸念されます。そんな時、糖尿病連携手帳が役立ちますので、ぜひご利用ください。

公益社団法人日本糖尿病協会 大災害でも生き残るために～これだけはやっておこう～糖尿病連携手帳挟み込み型 防災リーフレット(ホームページより)



患者会 はまゆう会のご案内

平和台病院はまゆう会は患者会員、職員会員合わせて約100名です。県内で1番の会員数を誇っています。この会員に相応しい活動はどうあるべきか、毎月1回必ず役員会を開催し患者と職員が協同して夢や希望、未来を語り新しいつながり、結びつきを創ることはできないか、色々な行事を計画しています。

同じ病気を持つ同志、気軽に話し合い、健康寿命で長生きしましょう。
皆さんの入会をお待ちしています。



相談窓口のご案内

患者さん・ご家族の方へ

- 地域連携室・医療相談室では、患者さんの生活や、入院中の不安なこと、介護保険制度等の説明などを、担当の社会福祉士、糖尿病看護認定看護師がご相談をお受けしています。
- ご自宅での生活や、治療についてなどお困りのことがございましたら、お気軽に声をおかけください。



医療機関の皆さまへ

- 地域連携室では医療機関・福祉関係事業所との連携を行っています。医療機関からの転院等の相談については地域連携室にお問い合わせください。
- 糖尿病内科外来初診の紹介につきましては、FAX予約を地域連携室にて受け付けております。詳しくは平和台病院 ホームページをご覧ください。

※緊急の患者紹介等の場合は、医師同士での相談をお願いいたします。



発行元：医療法人社団 祉和会 平和台病院 広報委員会

〒880-0034 宮崎県宮崎市矢の先町150番地1

TEL:0985-24-2605 FAX:0985-22-0787 URL:<https://www.heiwadai.or.jp/>



令和2年6月1日発行